

いつものさんぼみち

作詩 高尾 桃花 (25才)

1 いつものさんぼみち

きょうのおそらはわらってる
わたしのこころもわらってる
ひとりのさんぼはさみしいよ
ふたりでいけばはなしがはずむ
わいわいと、みんなでいけばわらいすぎ
くるまいすがかるやかに

2 いつものさんぼみち

きょうのこころはざわついた
わたしのこころはじゆうでんちゆう
あなたのいないさんぼみち
どんよりしながらあるいてる
ま、いいか いけるとこまでいってみる
くるまいすがおもすぎる

3 いつものさんぼみち

きょうのおそらはきらっとしてる
わたしのこころもうきうきしてる
あなたといっしょのさんぼみち
いつもさわやかあなたのえがお
なんてこった、どこまでもいけそうだ
くるまいすがはずんでる

君とメロンパン

作詩 西本 愛佳 (30才)

君が大スキなメロンパン

いつもおいしそうに笑顔でほおばる君
その笑顔を見るだけで私はうれしい
メロンパンが売りきれているとすごくさみしそうな君
そんなさみしそうな君を見ると私もさみしくなる
君に話しかけてみよう
「よかったらこのメロンパンどうぞ??」

君が笑顔でこたえる

「おっ! オレの大スキなメロンパン」

「いいの? 本当にもらって」

私はこたえる

「うん 君にあげる 私もこのメロンパンスキなんだっ」

「おーまじか じゃあよかったら一緒に食べよう」

うん?一緒に食べよう じゃあ二人ではんぶんこ??

二人とも笑顔でせーのっ? いただきます

サクサク、モフモフ幸せの甘い味

なんてすてきな時間だろうか・・・

この小さくて甘い幸せがずっと続きますように

手

作詩 廣山 美香 (3才)

あの時 あなたは教えてくれた
まるで 闇をはらいのける風のような力強い手で
私の腕を握ったあなたの手は
強かった けれど 優しくかった
あなたは教えてくれた
手は「希望」

いつどんな時も いついつまでも

「生きること」は「奇跡」を生む

それは 何度でも

あなたの手を握り返した私の手は

まだ幼い手だった

あの時 あなたは教えてくれた

まるで 心清らかにする水のような涙こぼして

私の心を包んだあなたの手は

寂しげに けれど 温かかった

あなたは教えてくれた

手は「架け橋」

いつどんな時も いついつまでも

「生きること」で「心を伝えること」ができる

それは 何度でも

あなたを 抱きしめたい 私の手で 何度でも

手をつなごう! 優しく 強く 温かい手を

私たちができること

それは「生きること」

あなたは教えてくれた

それは「命を思い合う心」

未来へ架けたい「希望の心」



わたなが

わたぼうしコンサートinながさき実行委員会